

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 子どもの遊びの理解と支援について学び、遊びの本質や在り方について再認識できました。「自分が、自分で、自分から」を基にした主体的な遊びを保育者がどう理解しているのが重要だと学びました。遊びは成功する体験とともに失敗する体験がとても大切であり、子どもの「どうしたらできるか」という思考を高められ、それが主体的な行動に繋がるということが分かりました。どうしたらできるかを子どもと共に同じ目線で考え、子どもの無限の可能性を引き出していければと思いました。
- ◆ 子どもにとってなぜ遊びが大切なのか、他者との遊びの中でこそ得られる主体性、支援員としての援助について学ぶことができました。また、学習指導要領が改訂されたことの意味や、現在の子どもを取り巻く環境の変化、ライフハザードにも理解を深めました。未来を担う子どもたちのコミュニケーション能力や心のIQを高めていくには、支援員も子どもの側の目線でできる援助をしていくことが大切だと思いました。
- ◆ 「支援」と「援助」は似ているようで内容は違い、今まで放課後児童支援員として援助できていたのかということを変えて考えました。見取る、見守る、見通す、見定めるの4つの見方では、見通しが足りなかったり、子どもからいつ離れるかといった引くタイミングが上手くいかなかったりすることがあります。子どもの様子をよく観察することや、覚悟を持って見守る姿勢が足りていなかったのではと感じました。年々変化していく子どもたちを取り巻く環境に、自分もしっかり対応していきたいと思いました。
- ◆ 子どもは遊びを通して成功・失敗体験をし、自分を発見し、他者とのコミュニケーションを深め成長していきますが、現代では環境の変化により、コミュニケーション能力、体力の低下、自律神経、免疫系の異常、生活習慣病等、成長に影響が出ていることを学びました。スマホやゲームに依存し、コミュニケーション能力が低下する中でも自分ができる援助を見出し、ともに笑い学び子どもたちの成長を見守りつつ自分も成長できるよう努力しなければならないと思いました。
- ◆ 子どもにとっての遊びとは他と関わりながら遊ぶことで他との共通性と自身の個性に気づき、成功体験、失敗体験を経験し成長するものだと分かりました。「新・教育学のすすめ」を参考にして子どもが善くなりたいと思うことを一緒に共感し、善さを見つけていきたいと思います。また、支援員の援助の在り方「見取る」「見守る」「見通す」「見定める」を実践し、子どもの遊びの大切さを理解し、これからの支援に活かしていきたいと思います。